

ニッポン

ドクター和の



臨終凶巻

「俺が生かして、俺が死なせたい感じが。申し訳ないと思ってる」。映画監督の北野武（ビートたけし）さんが、俳優の大杉漣さんの死を受けて、司会を務めるテレビ番組でつぶやいた言葉です。涙を堪えるのに必死なように見えました。

たけしさんと大杉さんの出会いは、1993年の映画『ソナチネ』でのオーディション。また無名だった大杉さんは時間を間違えて1時間の遅刻。しかし、たった数秒間顔を見ただけで、たけしさんは動が働いて、大杉さんの起用を決めたといえます。そこから大杉さんは、北野映画には欠かせない存在となり、テ

44 大杉漣



先のとけしさんの言葉には「俺があるとき採用しなかったら、こんな忙しい俳優になることもなく、早く逝くこともなかったんじゃないか」という思いが込められていたようです。大杉さんが体調不良を訴えたのは2月20日。千葉県内でドラマの撮影が終わり、共演者らと

「俺が生かして、俺が死なせたい感じが。申し訳ないと思ってる」。映画監督の北野武（ビートたけし）さんが、俳優の大杉漣さんの死を受けて、司会を務めるテレビ番組でつぶやいた言葉です。涙を堪えるのに必死なように見えました。

急死直前、襲った「放散痛」

一般的に「みぞおちが痛い」という訴えで受診される患者さんのなかには急性心筋梗塞が混じっています。あるいは突然の背部痛なら大動脈解離のことも。このように病む臓器から少し離れている場所が痛むことを「放散痛」と言います。これを見逃して胃内視鏡など消化器の検査をしている間に取返しがあるの

「役者は二度死ぬ」とよく言われます（役者だけでなく誰でもそうであると思います）。一度目は肉体が減んだとき。二度目は、誰からも忘れ去られたとき。そう考えると、多くの人から愛された大杉さんの二度目の死は、まだ遠い未来にあるのでしょうか。

大杉さんは胸痛ではなく、腹痛を訴えていたのになぜ、心臓だったのか？と疑問に思われた人も多いでしょう。しかし決して珍しいケースではないように感じます。

大杉さんは胸痛ではなく、腹痛を訴えていたのになぜ、心臓だったのか？と疑問に思われた人も多いでしょう。しかし決して珍しいケースではないように感じます。

つかなくなることもあります。急性心筋梗塞では肩や腕、腰の痛みを訴える人もいます。若い人なら耐え難い、尋常ではない胸痛や圧迫感を訴えることも。しかし心筋梗塞＝胸痛とは限らず、上腹部痛である場合もあることは知っておいてください。私は、その痛みが「今まで経験したことがないような痛みか」「脂汗をかいているか」と問診します。

さて、たけしさんは「俺が死なせたい」と嘆かれましたが、大好きな役者仲間にもまれて、仕事の最中に亡くなられた大杉さんは、素晴らしい俳優人生だったともいえるでしょう。